

## 南砺をめぐるモニターツアーの企画・実施

団体名●専門ゼミナールⅢ & Ⅵ(石川美澄ゼミナール)／代表者名●石川美澄(経済学部准教授)

### はじめに

北陸新幹線開業以降、金沢の「北陸観光の玄関口」としての機能は強化された。一方で、金沢から他エリアへの広域的な観光客の動きにはまだまだ改善の余地がある。このような背景の下、2019年度の石川美澄ゼミナールでは、金沢から「わざわざ訪れたいくなる」ような南砺体験プログラムを企画し、実際にお客様を募集・案内するという一連の旅行業務を実施した。この過程を通じて、学生たちが、一般社団法人南砺市観光協会(以下、南砺市観光協会)や様々な民間事業者とのやりとり(交渉や精算等)を経験するとともに、集客や伝統工芸等を商品化すること、魅力的な商品を作り上げることの楽しさ・困難さを体得していくことを目指した。なお、富山県南砺市をフィールドとして選択した理由は、金沢と南砺をつなぐ公共交通(バス)が運行している点と南砺市が広域連携による観光ルートづくりを課題として挙げている点にある。

### 活動内容

本活動は、南砺市観光協会の協力の下、2019年4～11月の期間に行われた。まず、インターネットや文献等を活用しながら、南砺市の観光の現状や観光資源に関する基礎知識を習得した。その後、7月に南砺市井波・城端の2エリアにて現地調査を実施した。また、本学にて南砺市観光協会の米田氏のお話を伺った。9月以降は、モニターツアーの具体的な行程や料金交渉、告知用媒体の制作等を行った。ツアー内容については、南砺市観光協会から助言等もいただいた。そして、11月24日にモニターツアーを実施し、11月30日に南砺市にて成果報告会を開催した。なお、学生15名を4つのグループに分け、各グループで話し合い、ターゲットやエリアを決定した。4グループとは、①井波インバウンド向けツアーグループ、②井波日本人向けツアーグループ、③城端ものづくり体験グループ、④南砺市の認知度と体験型観光に関するアンケート調査グループである。

表1：ゼミ活動のスケジュール

4-5月	輪読、南砺市の観光政策や観光資源に関する基礎知識の習得、アイデア出し
5-8月	グループ分け、予備調査のための準備、予備調査①②の実施
9-11月	企画内容の調整、告知用媒体の制作、参加者募集、モニターツアーの実施、成果報告会開催

### 成果、結果の考察

SNSやクチコミを利用してモニターツアーの参加者を募った結果、上述のグループ①に6名(本学の短期留学生)、グループ②に3名(一般参加の20代2名、40代1名)の応募があった。ツアー当日の学生たちは、案内や会計、記録等の役割を担った。参加者からは、「金沢の近くに、こんな素敵な場所があるとは知らなかった」や「また来てみたい」という声をいただくことができた。一方で、昼食会場の予約トラブルや休憩時間の確保等に対する配慮不足もあった。なお、学生からは「地域を盛り上げようと活動されている方々が多くいることに気づいた」や「事業者の方々と電話・メールでやり取りすることの難しさを知った」という意見が寄せられた。

### 今後の課題、展望

南砺市観光協会からは、次回に向けて「既存の観光プログラムの磨き上げ」や「観光動態等に関する調査」等の新たな活動につながるアイデアをいただいた。地域で活躍する様々なアクターとの関係をより一層丁寧な築きながら、活動を継続していきたいと考えている。



写真左：木彫り体験を終えた参加者に対するヒアリング



写真右：南砺市での成果報告会